

平成29年度ホタテガイ採苗通報(第4報)

平成29年5月2日



宮城県

気仙沼水産試験場 TEL:0226-41-0652 FAX:0226-41-0743
 E-mail:kssuisan@pref.miyagi.jp
 HP: http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kesenmuma-s/
 Facebook: https://www.facebook.com/kesuishi
 気仙沼地方振興事務所水産漁港部 TEL:0226-22-6852
 水産技術総合センター TEL:0225-24-0138
 県漁協各支部青年部・研究会

- ・ 小型～中型幼生、大型幼生ともに増加し、ホタテガイ付着稚貝も増加したことから、唐桑(只越)及び岩井崎の周辺海域では採苗袋の投入時期を迎えたと考えられます。

《調査結果の概要》 調査日:5月1日、同月2日

- ・ 調査地点の表層水温は10.0～11.0℃、10m水温は8.7～9.4℃でした。なお、昨年同時期の表層水温は10.6～11.7℃、10m水温は10.0～11.4℃でしたので、昨年より10m水温では1～2℃低くなっています。
- ・ 只越(唐桑)、岩井崎、唐島(大島)で浮遊幼生調査を実施したところ、小型～中型浮遊幼生、大型幼生ともに先週と比べ増加していました。
- ・ ムラサキイガイ(シウリガイ)幼生も増加していました。
- ・ 約1週間設置した試験採苗器には、只越(10m層)で98個、岩井崎(10m層)で33個のホタテガイ稚貝の付着が確認されました。
- ・ ホタテガイ母貝の生殖腺指数は、唐桑(砂子浜)では12.7%(5/2)、本吉(蔵内)では16.5%(5/1)と、どちらも前回から低下し、唐桑(砂子浜)では産卵が終盤を迎えていると思われ、浮遊幼生は今後も増加していくと思われれます。

表 浮遊幼生調査結果

調査点 調査月日	水温(℃) 表層/10m	採取方法 (プランクトンネット)	ホタテガイ浮遊幼生数 個体/m ³		その他(ムラサキイガイ等) 幼生数 個体/m ³	ホタテガイ付着稚貝数 個体/袋 (投入日-回収日)
			250ミクロン未満 (小型～中型)	250ミクロン以上 (大型)		
只越(唐桑) 5/2	10.0/9.4	10m曳	38	5	18	98 (4/22-5/1)
		20m曳	55	7	22	- (/ - /)
岩井崎 5/1	11.0/8.8	10m曳	36	4	52	33 (4/24-5/1)
唐島(大島) 5/1	10.8/8.7	10m曳	25	2	30	

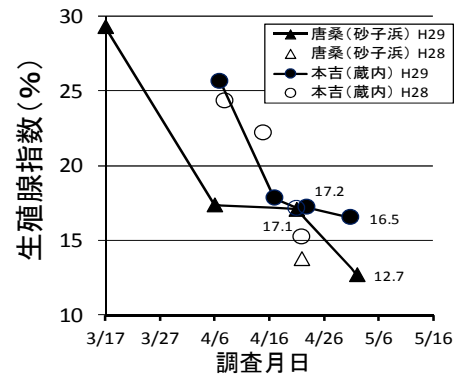


図 生殖腺指数の推移

県外情報

青森県(5/2)

- ・ 陸奥湾における浮遊幼生の出現数は西湾、東湾とも過去10年の同時期の平均値よりもかなり多い状況。
- ・ 東湾では付着数がかかなり多くなることが予想されることから、残りの採苗器は来週の投入を呼びかけ。

岩手県(5/1)

- ・ 大型幼生が増加。間もなく採苗器の投入時期と予想。

次回の通報発行は5月11日頃の予定です。